

## 三浦半島鳥類レッドデータブック(第一報)

宮脇 佳郎<sup>1</sup>

### はじめに

レッドデータブック(RDB)とは、絶滅のおそれのある野生生物の種についてそれらの生息状況等を取りまとめたもので、国内では環境庁(1991)が発行してから各県・各地方単位でも独自のRDBを作成し、神奈川県(1995)、埼玉県(1996)、大阪府(2000)などから発行が相次いでいる。筆者はより特定の地域でのきめ細かい情報を公表することが必要と考え、三浦半島版のRDBを独自に作成することを思いついた。しかし、定量的なデータが乏しい現状ではそれらのデータを収集するのに長時間かかることが予想されるため、地元のいわゆるベテラン野鳥観察者にアンケートを行うことにした。アンケートは三浦半島渡り鳥連絡会会員で三浦半島に在住し、且つ三浦半島において約20年以上の野鳥観察経験者である方に2004年1月にお願いし、5名から回答をいただいた。ここでは氏名は公表しないが、ご回答いただいた5名の方には深くお礼申し上げる。

今回は第一報として三浦半島で繁殖する鳥類で絶滅のおそれがあると判断された27種について報告するが、非繁殖期の鳥類などのリストも順次整備し公表していく予定である。

### アンケートの主旨

三浦半島において各地で宅地造成、道路工事、産業廃棄物処理場建設など大小にかかわらず開発が行われており、身近な自然環境が次々と消失、または消失しようとしている。このままのスピードで開発が進めば、三浦半島で見られなくなってしまう鳥が出てくるのは時間の問題と思える。三浦半島で生活する市民にその鳥の存在を知らない間に三浦半島から絶滅させてしまうのはとても残念なことだと言えよう。そうした市民に、現在、三浦半島で絶滅の危機に瀕している、または減少している鳥類を認知してもらい、我々、野鳥観察者の間でも情報を共有できるよう、三浦半島内で絶滅のおそれのある野鳥のリスト(レッドリスト)をまとめることにした。レッドリスト作成に当たっては定量的な判断ができるよう、各種において個体数変動などがわかるデータが必要となるが、残念ながら現段階では検証できるデータを持ち合わせていない。そうしたデータを得るまでにはまだ調査に時間がかかり、そうしている間に半島内から絶滅してしまう鳥が出るおそれがある。そこで、取り急ぎ、半島内で野鳥観察の経験が長く、半島の鳥類に精通する野鳥観察者に定性的に

---

1：三浦半島渡り鳥連絡会

見て、半島内で繁殖記録のある種の増減をアンケート方式で調査することにした。

### アンケート内容と集計方法

三浦半島(ここでは逗子市・葉山町・横須賀市・三浦市とする)において、1971年以降に繁殖が確認されたことのある帰化種・逸出種を除く鳥類53種(横須賀市博物館, 1991a など)(表1)について、1980～90年代と比べ、現在の状況を表2の5カテゴリーから判定を行い、記号によるランク付けをお願いした。5名分の回答と筆者の1名分を追加した計6名分で

(表1) 三浦半島で繁殖記録のある鳥類

種番号	種名	種番号	種名	種番号	種名
1	カイツブリ	21	フクロウ	41	オオルリ
2	アオサギ	22	カワセミ	42	サンコウチョウ
3	コサギ	23	コゲラ	43	エナガ
4	クロサギ	24	アオゲラ	44	シジュウカラ
5	ゴイサギ	25	ヒバリ	45	ヤマガラ
6	ミゾゴイ	26	ツバメ	46	メジロ
7	トビ	27	コシアカツバメ	47	ホオジロ
8	オオタカ	28	イワツバメ	48	カワラヒワ
9	サシバ	29	キセキレイ	49	スズメ
10	カルガモ	30	ハクセキレイ	50	ムクドリ
11	ウズラ	31	セグロセキレイ	51	オナガ
12	ヤマドリ	32	ヒヨドリ	52	ハシボソガラス
13	キジ	33	モズ	53	ハシブトガラス
14	バン	34	イソヒヨドリ		
15	タマシギ	35	ヤブサメ		
16	コチドリ	36	ウグイス		
17	コアジサシ	37	オオヨシキリ		
18	キジバト	38	センダイムシクイ		
19	ホトトギス	39	セッカ		
20	アオバズク	40	キビタキ		

集計した。アンケートの集計方法は、カテゴリーの記号に応じてそれぞれ、AA：3ポイント、A：2ポイント、B：1ポイント、C：0ポイント、?：0ポイント(表3)で種ごとに加算し、回答者全員の合計ポイントの多い順、つまり絶滅の危険が高い順に集計した。回答者は計6名であるから、1種につき最高18ポイントになる。なお、カテゴリーと要件については環境省のレッドデータブック(2002)を参考にした。

(表2) レッドデータの判定基準

記号	カテゴリー	定性的要件
AA	絶滅種	過去に半島内で生息していたが、現在では確認できていない種。
A	絶滅危惧種	次のいずれかに該当する種。 ①既知のすべての生息地で生息条件が悪化している。 ②既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ③大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ④大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。
B	準絶滅危惧種	次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行のおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 ②生息条件が悪化している。 ③過度の捕獲・採取圧にさらされている。
C	普通種	以前と比べ大きな変化がない。または増加傾向にある種。
?	情報不足	観察例が少なく判定できない種。

(表3) レッドデータのポイント表

記号	ポイント
AA	3
A	2
B	1
C	0
?	0

## アンケート結果

合計ポイントの多い順に上位 20 位 27 種を表 4 に示す。備考の+はその種が回答者によって情報不足と判定した場合で、++はそれが複数人の場合である。つまり、今後ランク付けされた場合には、さらに上位にランクされる可能性を含んでいる。また、県内の RDB 度は神奈川県レッドデータ(1995)を参考に付記した。

各種について、三浦半島内での主な生息環境、主な食物、考えられる減少している主な原因について以下に概略を述べた。また、早急に何らかの保護対策を講じる必要があるサシバ、タマシギ、ミゾゴイの3種については、推定生息個体数などの現状も最近の生息調査(宮脇, 未発表)から概略を述べた。

(表4) 三浦半島鳥類レッドリスト

順位	種名	学名	合計	備考	県内のRDB
1	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	12		減少種
1	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	12		危惧種

3ミゾゴイ	<i>Nycticorax goisagi</i>	8	+	危惧種
4ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	6	++	減少種
4アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	6		減少種
4サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	6		減少種
7カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	5	+	健在種
7オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	5	+	希少種
7コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	5		減少種
7オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	5	+	減少種
11コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	4	+	危惧種
11ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	4		健在種
13クロサギ	<i>Egretta sacra</i>	3		危惧種
13ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>	3	++	減少種
13バン	<i>Gallinula chloropus</i>	3	+	減少種
13コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	3	+	減少種
13フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	3		減少種
13セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	3		健在種
13セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	3	+	減少種
20ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	2	+	減少種
20イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	2	+	健在種
20キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	2		健在種
20ヤブサメ	<i>Cettia squameiceps</i>	2	+	減少種
20センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	2		健在種
20キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	2		健在種
20オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	2	+	減少種
20オナガ	<i>Cyanopica cyana</i>	2	+	健在種

◇サシバ（タカ科）：ハシボソガラスくらいのタカ類。谷戸に水田のある環境を好み、ヘビ・カエル・バッタ類などを食べる。夏鳥。【原因】谷戸環境の開発。ほかのタカ類との競合など。【現状】推定生息個体数 10 羽以下。

◇タマシギ（タマシギ科）：体長 24cm。平地の水田に生息し、甲殻類・貝類・昆虫類の幼虫などを食べる。オスが子育てする。留鳥。【原因】水田の減少と畑への転作。湿地の宅地化など。【現状】絶滅した可能性がある。

◇ミゾゴイ（サギ科）：ハシボソガラスくらいのサギ類。森林に生息し、サワガニ・カエルなどを食べる。谷戸の発達する環境を好む。夏鳥。【原因】谷戸環境の開発。森林の開発などによる減少と分断化など。【現状】推定生息個体数 10 羽以下。

- ◇ ヤマドリ (キジ科) : オスは尾が長く体長は1 mを越す。森林の地上で生活し、植物の種子や葉などを食べる。留鳥。【原因】森林の開発などによる減少と分断化など。
- ◇アオバズク (フクロウ科) : キジバトより小さいフクロウ類。夜間活動し、ガ類・甲虫類などを捕食する。社寺林の樹洞などで繁殖する。夏鳥。【原因】営巣できる大木の減少。森林の開発による餌の減少。越冬地の環境悪化など。
- ◇サンコウチョウ (カササギヒタキ科) : オスは尾が長く体の2倍ほどにもなるヒタキに近縁の小鳥で、メスはホオジロくらいの大きさ。昆虫類を食べる。夏鳥。【原因】森林の開発などによる減少と分断化。越冬地の環境悪化など。
- ◇カイツブリ (カイツブリ科) : 体長26cm。淡水の池を好み、潜水し魚類などを食べる。留鳥。【原因】溜池の開発など。
- ◇オオタカ (タカ科) : ハシブトガラスくらいのタカ類。森林でハト類など鳥類を捕食する。【原因】森林の開発などによる減少と分断化など。
- ◇コシアカツバメ (ツバメ科) : ツバメより一回り大きい。飛びながら昆虫類を捕食する。市街地などに局地的に分布し、低層マンションなどの建造物に営巣する。【原因】営巣環境の悪化など。
- ◇オオヨシキリ (ウグイス科) : ホオジロくらいのウグイス類。ヨシ原を好み、昆虫類・クモ類などを食べる。夏鳥。【原因】水田の畑への転作。湿地の宅地化など。
- ◇コアジサシ (アジサシ科) : 体長24cm。海面に空中からダイビングして小魚を捕食する。海岸に新しく出来た埋立地で突発的に繁殖する。夏鳥。【原因】埋立地の開発。カラスやネコなどによる卵やヒナの捕食など。
- ◇ホトトギス (カッコウ科) : キジバトより小さいカッコウ類。森林でガ類の幼虫などを食べる。托卵相手はウグイス。夏鳥。【原因】森林の開発などによる減少と分断化など。
- ◇クロサギ (サギ科) : コサギくらいのサギ類。磯を好み、魚類などを食べる。海岸の断崖で営巣し、県内では城ヶ島と真鶴半島のみで繁殖する。【原因】営巣地周辺への釣り人やレジャー客、小型観光船の接近など。
- ◇ウズラ (キジ科) : 体長20cm。草原や農耕地に生息する。留鳥。【原因】不明。
- ◇バン (クイナ科) : 体長32cm。淡水の池や湿地に生息し、動物質・植物質のものを何でも食べる。留鳥。【原因】溜池や湿地の開発など。
- ◇コチドリ (チドリ科) : 体長16cm。水田や畑、埋立地などで小型昆虫類などを食べる。夏鳥。【原因】水田の減少など。
- ◇フクロウ (フクロウ科) : ハシボソガラスくらいのフクロウ類。夜間活動し、ネズミや鳥類を捕食する。森林の大木や社寺林の樹洞などで繁殖する。留鳥。【原因】森林の開発などによる減少と分断化。営巣できる大木の減少など。
- ◇セグロセキレイ (セキレイ科) : 体長21cm。河川や水田などで水生昆虫などを食べる。留鳥。【原因】水田の減少と畑への転作など。
- ◇セッカ (ウグイス科) : スズメより小さいウグイス類。草原やヨシ原などで昆虫類・クモ

- 類などを食べる。留鳥。【原因】草原の宅地化。湿地の開発など。
- ◇ゴイサギ (サギ科) : コサギより小さいサギ類。夜に川や溜池、水田などで魚類などを食べる。他のコサギなどのサギ類と集団繁殖する。留鳥。【原因】溜池や水田の開発。集団繁殖地における周辺住民との軋轢など。
- ◇イワツバメ (ツバメ科) : ツバメより小さい。森林上空などを飛び回り、昆虫類を捕食する。局地的に分布し、海岸沿いの建造物に営巣する。【原因】営巣環境の悪化など。
- ◇キセキレイ (セキレイ科) : 体長 20cm。溪流などで水生昆虫などを食べる。留鳥。【原因】溪流の開発など。
- ◇ヤブサメ (ウグイス科) : メジロより小さいウグイス類。下草の多い森林で昆虫類・クモ類などを食べる。夏鳥。【原因】森林の開発などによる減少と分断化など。
- ◇センダイムシクイ (ウグイス科) : メジロより大きいウグイス類。森林で昆虫類・クモ類などを食べる。夏鳥。【原因】森林の開発などによる減少と分断化など。
- ◇キビタキ (ヒタキ科) : スズメくらいのヒタキ類。森林で昆虫類・クモ類などを食べる。夏鳥。【原因】森林の開発などによる減少と分断化など。
- ◇オオルリ (ヒタキ科) : スズメより大きいヒタキ類。森林で昆虫類・クモ類などを食べる。夏鳥。【原因】森林の開発などによる減少と分断化など。
- ◇オナガ (カラス科) : 体長 37cm。尾の長いカラス類。局地的に分布し、市街地などで 10羽ほどの群で草木の実や種子などを食べる。【原因】不明。

## 文献

- 環境庁, 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物(脊椎動物編). 自然環境研究センター
- 環境省, 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物. 自然環境研究センター
- 神奈川県, 1995. 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学)第7号ー神奈川県レッドデータ生物調査報告書ー. 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 横須賀市博物館, 1991a. 三浦半島の野鳥一人と共に生きてー.
- 横須賀市博物館, 1991b. 三浦半島の自然環境ー5万分の1自然環境図説明書ー.
- 叶内拓哉ほか, 1998. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 山と溪谷社